



「学習発表会」お越しいただき有難うございました！

運動会後から取組んできた、2年生、4年生、6年生の「学習発表会」が、先週水曜日に無事、発表を迎えることができました。

前号の校長室だよりでも書きましたが、今年は奇しくもこの3つの学年の発表が「音楽」をモチーフとし、作品のテーマに「生きること」「命」が根底に流れるものとなりました。

2年生の「オズの魔法使い」は、みなさんご存知の児童向けのファンタジー小説で、これまでに映画やミュージカルで何度も上演されています。4年生が発表してくれたのはオリジナル脚本で「ぼくのおうえんか」、日常の子どもたちの生活の様子を切り取り、そこにある子どもたちの様々な心の葛藤を歌や演奏を機軸に淡々と描いています。また、6年生の取組んだ劇は、推理作家である赤川次郎さんが自身の子どもさんのために執筆した児童小説をもとに創られたもので、劇団四季がこれまでも何度も上演をしています。死後の世界、霊界を舞台に「生きていること」の意味を見終わった観客が深く考えさせられる素晴らしい作品です。

どの学年の作品も、クラス、学年がしっかりと『ひとつになって』、それぞれの作品に込められた思いを観客に伝えようとした熱気とエネルギーが観ていて、ひしひしと伝わってきました。それは、出演者でいえばセリフの多少ではなく、短い言葉であってもそれぞれの言葉には深く考えられた「意味」があり、それらが積み重なっていくことで、ひとつの「作品」として「完成」したのです。出演者だけではありません、照明や音響もすべてが「目的」をひとつにして取組んだ結果です。それが、観ていた私たちの多くの心を捉えたのだと思います。それが所謂「作品のテーマ」です。もうひとつ、特筆すべきことは、これら3つの作品すべてが『音楽』によって物語りが紡がれていったことです。

歌や学期の演奏を通して、子どもたちの「感性」が育まれているのを実感しました。子どもたちは勿論、この取組みに関してこられた担任の先生をはじめとする本校のすべての先生方の努力に敬意を払うと同時に、心から「成功しておめでとう！」という言葉が投げたいと思います。

フラットの仔犬です。並んでご飯中。

☆☆☆ 月曜の全校朝会での話し…

6日月曜の全校朝会で話したことを少し書かせてもらいます。先に書きましたが、先週の「学習発表会」のことを子どもたちに話したのですが、その中でこれらの作品が「命」をテーマのひとつにしていたことから、ふと、本校に来ているAAE活動犬のレイ君の生い立ちに少しふれました。一（以下はその話の概要です）…レイ君は7匹生まれた犬の中で最後にお母さんから生まれた子どもでした。しかし、実はレイ君はひょっとしたら「この世に生きて生まれなかった」かもしれなかったのです。…レイ君のお母さん（母犬、名前はソイヤー）のお腹に子どもができたとき、獣医さんで超音波で観てもらったら「6匹」の新しい命の影がありました。レトリバーのような犬種は一度に5匹から7、8匹の仔犬を生むことが多いのです。…出産のとき、お母さんのソイヤーは必至で頑張って時間をかけてようやく6匹の仔犬を生みました。6匹の仔犬を生み終わったときソイヤーの体力は消耗していました。…そのとき、ソイヤーの傍にいて見守っていたソイヤーの飼い主の方が、ソイヤーのお腹にはまだもう1匹の仔犬がいて、しかもその仔が何とか生まれようとしていることに気づいたのです。しかし、体力の弱っていたソイヤーは自力でこの7匹目の子どもを生むことができず、このままだと「死産」になってしまうことは誰もがわかっていました。そのとき、この飼い主の方はソイヤーから一か八かの覚悟で最後の7匹目の仔犬を取り出したのです。しかし、ソイヤーのお腹からでてきたこの最後の仔犬は自力で呼吸することができませんでした。これを見た飼い主の方が助けたい一心で生まれたばかりのこの最後の仔犬に人工呼吸を何度もおこなったのです。すると、もうあきらめかけていたとき、この仔が自力で呼吸をしたのでした。…まさに奇跡でした。超音波診断で他の仔犬の影になってわからなかったこの7番目の仔でしたが、こうやってこの世に「命」を授かって生まれてきたのでした。…実は、これが今、学校にときどき来ているレイ君なのです。生まれた当初は兄妹の中で小さかったのですが、お母さんのおっぱいをしっかり飲んで、皆に愛されて、今では体重35kgになりました。そして、ときどき来る学校で、皆さんからたくさんの愛情をもらって元気に生きています。…この話をしているとき、朝会での私の話を中々集中して聴くのが難しい1年生や2年生の子どもたちもしっかり聴いてくれていました。



「命」のことを子どもたちの「感性」で感じ取ってくれたのなら嬉しいです。

To be continued (次号に続きます)